

高等学校特別支援学校 健康教育部会ブロック研修

「地域の相談支援機関との連携」がテーマの研修会が開催され、山梨県内養護教諭の先生方を対象に、当院の「思春期外来の特徴」「思春期病棟の紹介」「こころの出前授業」について講義をしました。質疑応答では、病院との連携に悩んでいる事や、日々生徒とのかかわりに苦労しているといった言葉が多く、相談を受ける時間を設けました。こども達がより安心して学校生活を送る為に、病院と学校が連携し合うサポート体制の強化が必要と感じました。



講師：藤森千晶

北病院の役割

北病院では県の基幹病院として心の病を抱えた人のために、外来治療、入院治療、デイケア、訪問看護などさまざまな治療に力を入れています。県内で唯一の思春期専門の入院病棟もあります。

平成21年度より厚生労働省の事業に参加し、「子どもの心の診療拠点病院」として、児童思春期精神科医療の強化拡充とともに、医療、保健、福祉関係者の資質向上を図り、心に問題を抱えた子どもに適切な医療を提供できる体制を構築することを目指しています。



入院となる主な疾患

- 自閉症スペクトラム障害
- 注意欠損/多動性障害
- 摂食障害
- うつ病など気分障害
- 統合失調症
- 強迫性障害
- アタッチメント障害、行為障害
- (自傷行為:リストカット、過量服薬、首つりなど)



増加している

病気のイメージ

風邪をひく



・発熱・咳・鼻水



誰も経験があり、症状が見えるため辛い事が理解してもらいやすい。

精神疾患



・幻聴・幻視・妄想
・ストレスを感じやすくイライラしやすい。
・気持ちの落ち込み。
・消えなくなる。



※本人以外は病気による症状が分からず、辛いことが理解されにくい。

相談を受ける側のポイント



話をきける時間を確認しておく。



ボディランゲージ(うなずき・身振り手振り)



本人の語った思いをそのまま伝える。

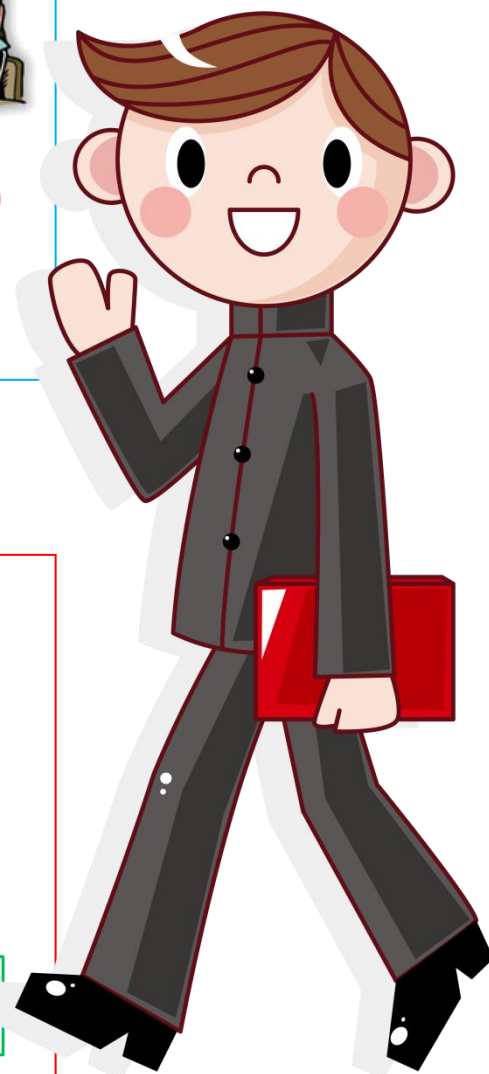
「辛いんだよ・」⇒「そっか、辛かったんだね」



正しいか、間違っているかの判断をしない。

Iメッセージ(私だったら～・・・)

「相手の問題を解決しようと思わない」相談した相手の気持ちを楽しみになり、問題に向き合えるエネルギーを蓄えられればOK



HP委員:清水・藤森